

CONTENTS

ビジュアルヘルプ – ModifyGraph	2
ModifyGraph コマンドのヘルプ	2

ビジュアルヘルプ – ModifyGraph

ModifyGraph コマンド（グラフの変更）は、Modify Graph ダイアログ（グラフウィンドウでダブルクリックするか、コンテキストメニューで Modify Graph を選択）でも操作できます。
ここではダイアログと対比して説明します。

ModifyGraph コマンドのヘルプ

ModifyGraph [/W=winName /Z] [frameInset=i, frameStyle=f, gfMult=f, gFont=fontStr, gfSize=gfs, gfRelSize=pct, gmSize=gms, height=heightSpec, swapXY=s, useComma=uc, useDotForX=u, UIControl=f, useLongMinus=m, width=widthSpec]

ModifyGraph コマンドは、ターゲットまたは名前付きグラフを変更します。
ModifyGraph のこのセクションは、一般的なグラフウィンドウの設定に関連しています。
以下のヘルプのセクションも参照してください：

ModifyGraph for Traces

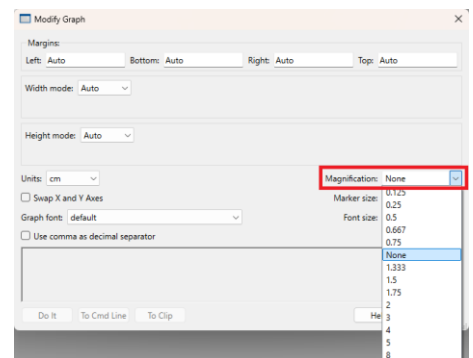
ModifyGraph for Axes

ModifyGraph for Colors

パラメーター

expand=e グラフの画面上の拡大率（または倍率）を指定します。
e は 0 または 0.125 から 8 倍までの拡大率を指定できます。

グラフの拡大は、ベースグラフ（サブウィンドウ内のグラフを除く）にのみ影響し、画面上の表示にのみ適用されます。
グラフのエクスポートや印刷には影響しません。



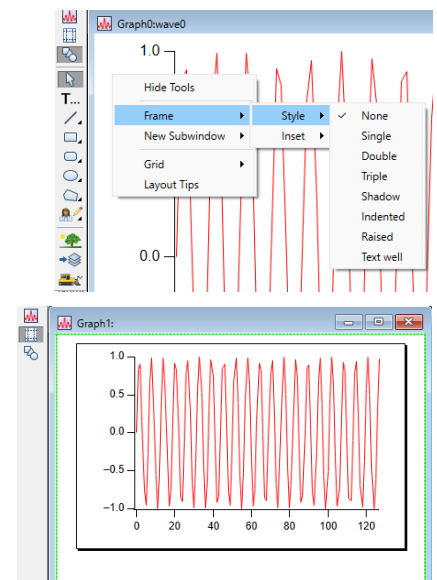
拡大率を変更すると、グラフウィンドウは自動的にサイズを調整します。
ただし、再作成マクロで使われる負の値は除きます。
これらの値は既に適切なサイズで設定されているためです。

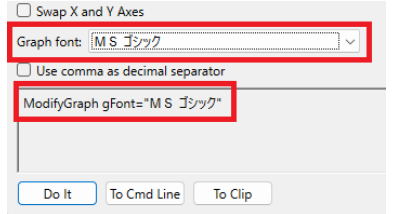
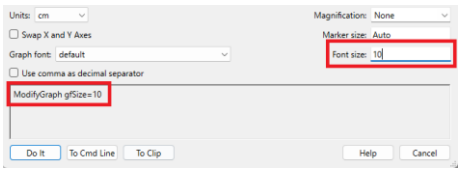
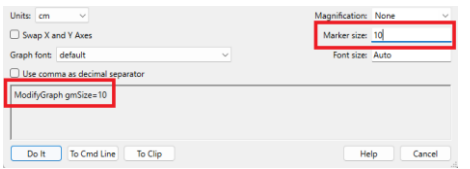
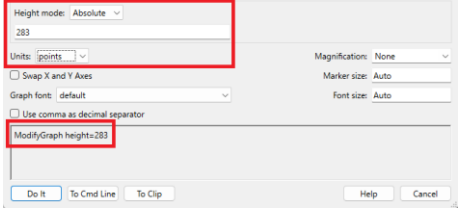
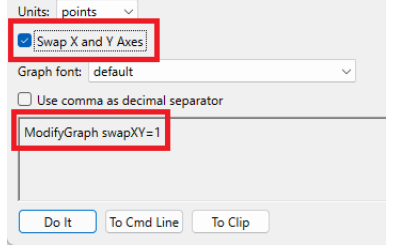
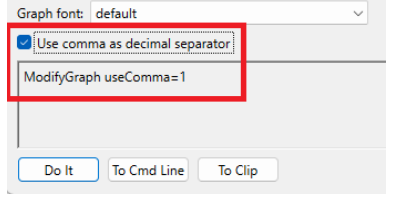
frameInset=i グラフのサブウィンドウのフレームを内側に移動させるピクセル数を指定します。

frameStyle=f グラフのサブウィンドウのフレームスタイルを指定します。
frameStyle の値は次のとおりです：

- f=0: None
- f=1: Single
- f=2: Double
- f=3: Triple
- f=4: Shadow (右図)
- f=5: Indented
- f=6: Raised
- f=7: Text well

最後の 3 つのスタイルは偽の 3D 効果で、囲むスペースとテーブル自体の背景色が薄いグレーの場合にのみ適切に表示されます。



<code>gfMult=f</code>	フォントサイズとマーカーサイズを $f\%$ 倍に拡大します。 25%から 400%の範囲内にクリップされ、他のすべてのフォントサイズとマーカーサイズの計算後に適用されます。	
<code>gFont=fontStr</code>	グラフのデフォルトフォントの名前を指定し、通常のデフォルトフォントを上書きします。 サブグラフの通常のデフォルトフォントは親グラフから取得され、ベースグラフは <code>DefaultFont</code> コマンドで設定された値を使います。	
<code>gfSize=gfs</code>	グラフ内のテキストのデフォルトサイズを設定します。 通常、テキストのデフォルトサイズはグラフのサイズに比例して決定されます。 <code>gfSize</code> の設定値は、この計算を上書きします。 また、<code>gfRelSize</code> メソッドも同様です。 -1 を指定すると、サブグラフは親グラフからデフォルトのフォントサイズを継承します。	
<code>gfRelSize=pct</code>	グラフ内のテキストのデフォルトサイズを計算する時に使うグラフサイズの割合を指定します。 これは、グラフサイズに応じてデフォルトのフォントサイズを設定する Igor の通常の方法を上書きします。 このオプションを使うと、デフォルトのマーカーサイズはフォントサイズの 3 分の 1 に設定されます。 デフォルトの方法に戻すには、値を 0 に設定してください。	
<code>gmSize=gms</code>	グラフ内のマーカーのデフォルトサイズを設定します。 -1 を指定すると、サブグラフは親グラフからデフォルトのマーカーサイズを継承します。	
<code>height=heightSpec</code>	グラフ領域の高さを設定します。 例を参照してください。	
<code>swapXY=s</code>	<code>s=0</code>: X 軸と Y 軸の通常の向き。 <code>s=1</code>: X 値と Y 値を交換して、Y 座標を横軸、X 座標を縦軸にプロットします。 この効果は、グラフを左下から右上に鏡像で反転させた場合と似ています。	
<code>useComma=uc</code>	<code>uc=0</code>: 小数点としてピリオドを使い、千の位区切りにはコンマを使います（デフォルト）。 <code>uc=1</code>: 小数点区切りとしてコンマを使い、千の位区切りとしてピリオドを使います。 この設定は、注釈内の	

¥{expression } 構文における数値
の表示形式には影響しません。

useDotForX=*u* 軸ラベルの表示で、*u*=1 の場合、「5x103」などの指数表記では、通常の「x」がドットに置き換えられ、「5・103」となります。
useDotForX は、Igor Pro 9.0 で追加されました。

UIControl=*f* グラフのユーザーインターフェイスの特定の機能を無効にします。
Igor Pro 7.0 で追加された UIControl キーワードは、ユーザーアクションを無効にしたい上級 Igor プログラマーが使うためのものです。

これはビット単位の設定です。
ビットの設定の詳細については、ヘルプ Setting Bit Parameters を参照してください。

f は次のように定義されます：

- Bit 0: 軸のクリックを無効にします。軸の移動やその他の変更を防止します。
 - Bit 1: カーソルのクリックを無効にします。グラフのカーソルの移動を防止します。
 - Bit 2: トレースのドラッグを無効にします。グラフ上のトレースをオフセットするためのクリック&ホールド操作を禁止します。
 - Bit 3: マーキーを無効にします。この設定を有効にすると、グラフ上でマーキーを作成できなくなり、その結果、マーキーを使ってグラフの範囲を変更できなくなります。
 - Bit 4: 描画モードを無効にします。
 - Bit 5: ダブルクリックを無効にします。ダブルクリック操作を一切禁止します。一般に、グラフでのダブルクリックは、グラフの外観を編集するためのダイアログを表示します。
 - Bit 6: 注釈のクリックを無効にします。注釈の編集を防止します。
 - Bit 7: ツールチップを無効にします。
 - Bit 8: コンテキストメニューを無効にします。
 - Bit 9: マーキーメニューを無効にします。この設定では、マーキーを表示し、グラフの一部を選択する目的でマーキーを使用できますが、マーキーメニューを使用してグラフの範囲を変更することはできません。注意：Bit 3 が設定されている場合、このビットの設定は無視されます。
 - Bit 10: マウスホイールイベントを無効にします。これにより、マウスホイールを使った軸の拡大縮小が防止されます。
 - Bit 11: オプションドラッグを無効にします。Alt キーを押しながらプロット領域内でドラッグしても、グラフがオフセットされるのを防ぎます。
- Graph メニューの項目を無効にするには、SetIgorMenuMode を使います。

useLongMinus=*m* マイナス記号に、通常のダッシュ (*m*=0 ; デフォルト) または長いダッシュ (*m*=1) を使います。

width=*widthSpec* グラフ領域の幅を設定します。例を参照してください。

フラグ

/W=*winName* 指定したグラフウィンドウまたはサブウィンドウを変更します。
省略した場合、アクティブなウィンドウまたはサブウィンドウに影響します。
Proc、マクロ、またはコマンドラインで使う場合、これは最初に指定するフラグでなければなりません。

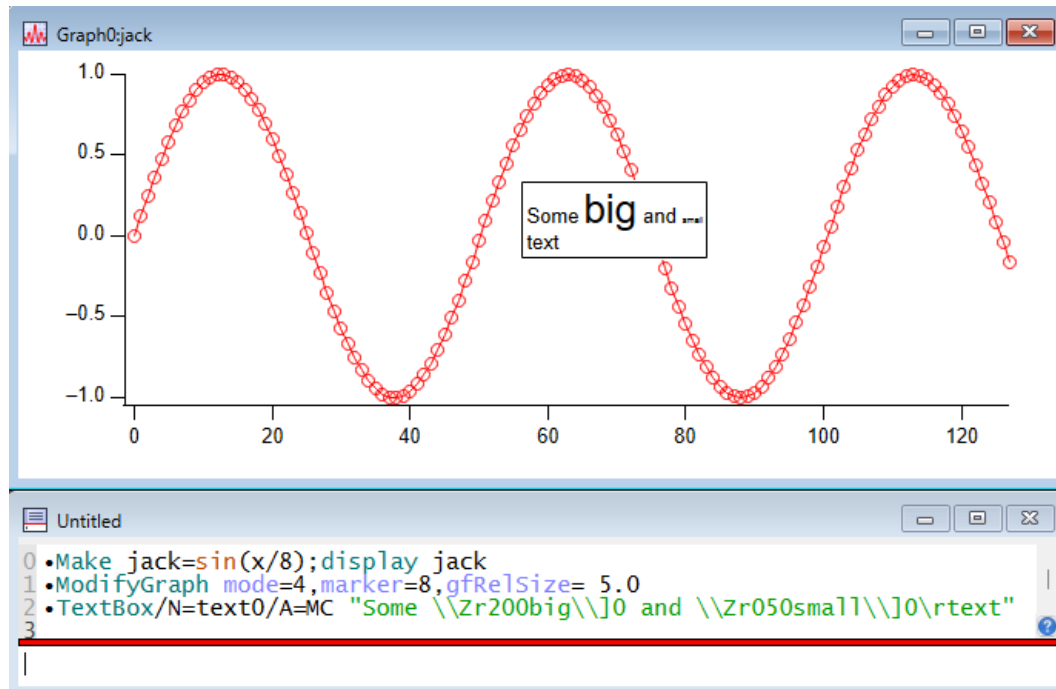
winName を使ってサブウィンドウを指定する時は、ウィンドウ階層の構成に関する詳細について、ヘルプ Subwindow Syntax を参照してください。

/Z インデックス付きトレース、名前付きウェーブ、または名前付き軸が存在しない場合、スタイルマクロでエラーは発生しません。

例

ウィンドウのサイズに応じてテキストが直接拡大縮小されるグラフを作成するために、以下の行を実行します：

```
Make jack=sin(x/8);display jack
ModifyGraph mode=4,marker=8,gfRelSize= 5.0
TextBox/N=text0/A=MC "Some \Zr200big\Zr0 and \Zr050small\Zr0\rttext"
```



widthSpec および heightSpec は、上部のグラフの幅と高さのモードを設定します。次の例は、さまざまなモードを指定する方法を示しています。

```
ModifyGraph width=0, height=0
// 自動の高さ、自動の幅モードに設定します。
// 水平軸と垂直軸の幅と高さは、グラフ全体のサイズや、軸のオフセット設定、
// 外部テキストボックスの影響などの要因に基づいて、自動的に決定されます。
// これは、通常のデフォルトモードです。

Variable n=72*5
// ポイントとして5インチ

ModifyGraph width=n
// 絶対幅モード。水平軸の幅を n ポイントに制限します。

ModifyGraph height=n
// 絶対高さモード、n はポイント単位です。垂直軸の高さは n ポイントに制限します。

Variable n=2
ModifyGraph width={perUnit,n,bottom}
// 単位幅モードです。水平軸の幅は、下側の軸の範囲に n ポイントの倍を加えた値です。

ModifyGraph height={Aspect,n}
// アスペクト比モード、n はアスペクト比です。垂直軸の高さは、水平軸の幅の n 倍です。
```

```
ModifyGraph width={Plan,n,bottom,left}
```

// Plan 幅モードです。水平軸の幅は、垂直軸の高さの n 倍に、下側の軸の範囲を左側の軸の範囲で割った値です。

参照

ヘルプ [ModifyGraph for Traces](#)、[ModifyGraph for Axes](#)、[ModifyGraph for Colors](#)